

第 141 回 2023 年6月科学技術者フォーラム交流会報告

1. 日時:6月 24 日(土) 13:30 ~16:45
2. 場所:品川区立総合区民会館(きゅりあん)4F 第 1 特別講習室
3. 参加者:会場 15 名、WEB 7 名、計 22 名
4. 話題提供者: 河野順一氏 (株)ネスパ取締役会長、OWRA 代表理事

テーマ 1:「OWRA の活動紹介」

- A. 「有機系廃棄物資源化・実用システムの確立」を目的とするOWRA(**O**rganic **W**aste **R**ecycling **A**ssociation)の紹介
- B. 老朽化して停止が近い、或は30年以前の大型ごみ焼却施設を対象に小型処理機による分散方式を推進、有機系廃棄物資源化を目指す。
- C. 現在は主として、昇華・炭化装置を用いて炭化飼料・肥料・燃料を生産物として事業化を推進。
- D. OWRA小海町プロジェクト(生ごみ連続式炭化実証実験)の紹介。本年4月に実験に成功、現在実装実現に挑戦中。

質問1. 有機系廃棄物の炭化率は? =>重量比約6%、採算性は? =>処理費用で賄える。生ゴミには80%が水である。

質問2. 欧州は、微生物処理が多いが、何故炭化か? =>内容物に関係なく適用できる。分別、ゴミ処理ではドイツは半世紀進んでいる。日本では鎌倉市が進んでいる。

質問3. 炭化成果物に有機物は残らないのか? =>問題にならない。土壌改良剤である。

質問4. 20 年ほど前千葉県で試験的に有機物廃棄物の有効利用をしようとしたが、生ごみの品質が悪くてうまく行かなかった。そういうことはないだろうか? =>当時の状況を知る人、資料もなく詳細不明。低品質でも有用・有益な資源化に挑戦し、炭化に辿り着いている。

テーマ 2:「80 還暦 100 才現役」運動

- A. 「何をしてきたのか?」、「何をしているのか?」の具体例として挑戦中のテーマの紹介。
- A-1. 有機系廃棄物資源化協会----- テーマ1. で紹介
- A-2. 藻場形成基盤材製造。アクティブ藻礁を漁業組合(千葉県、鹿児島県)、海洋風力発電事業の漁業(千葉県大原)支援。
- A-3. 鳥インフルエンザ対策。単純原料による有機系廃棄物資源化の製品(混合飼料)が炭化物の販路として採用されることになった。
- A-4. 有機系廃棄物資源化技術の応用例として連作障害対策。
ハウス苺、温室バナナ、大豆、ジャガイモ等
- A-5. 畜糞炭化プラント。グルメアクションを飼料に混入すると悪臭が無くなり、鶏舎の環境改善と、これを炭化し土壌改良剤として散布すると農作物の質向上になる。

- B. アラジン (Alajin: アラーム地震) 地震予知機構。研究者と 6 人で始めて 10 年間毎週予知情報交換。公的資金導入で各システムの観測点拡大を提案中。
- B-1. アラジン地電流: 1) ピエゾ効果、2) 自然電位測定、3) 地震発生直前の電位変化
- B-2. アラジン植物電位観測による地震予知(ネムの木)。2019 年北海道厚真大地震の例。
現在全国で 6 カ所 => 200 カ所にすればどこの地震でも予知可能。
- B-3. アラジン AM 電波の受信異常による予知。現在 4 カ所のみ。=> 20 ヶ所が理想。
- B-4. アラジン GPS 観測による地震予知。3.11 大地震で明確になった。現在 240 ヶ所。
- C. デジタルヘルスリポート DHL。デジタルヘルスサイクリングクラブ DHCC。
荒尾トライアル温泉。ベトナムヘルスリポート。の紹介。
- D. 仕事を創り挑戦すべし! 毎日、10 回・深呼吸、鼻吸気、口から少量吐息(実演兼ねて)の勧め。他、睡眠 10 時間確保。毎月 2 回の旅行。週 1 冊の読書。「寝てメモ」の紹介。

感想: 80 歳還暦 100 歳現役と言われる河野順一さんがユーモア交えて淀みなく語られた約 3 時間に及ぶお話し、ただただ感心するばかりで、後に続く我々にとってはとても良い刺激になりました。それにしても若いころの厳しい経験を経て後、常に好奇心を持ち前向きに、新たな事に挑戦をされるお姿は素晴らしく、特に最近取り組まれているプロジェクトは生活に密着する重要な課題で、これらに賛同する人の和が広がって行くことを願います。最後に紹介された「寝てメモグッズ」も大変参考になります。ありがとうございました。

通信トラブルで特にオンライン参加の方々にご迷惑おかけしたことをお詫びいたします。

【報告: 山岸 任、 写真: 角野】

